広報
座光寺
2012
6
No.21

座光寺風景

金環日食観察

▲児童たちにはこのように見えていました。

5月21日（月）登校時刻を1時間早め、金環日食観察会を全校児童が行いました。専用シートを太陽にかざし輝くリングの様子を興味深く観察しました。この経験は生涯思い出に残ることでしょう。（場所：小学校校庭）

リニアに地域の夢を乗せよう

自治会長　湯澤英範

リニア中央新幹線建設は、路線・駅位置の概要が、昨年八月に発表されて以来、一躍現実味を帯びてきました。

遅くも来年の秋には場所の確定がされようとしています。

リニアという巨大プロジェクトが、座光寺地域に大きな変貌をもたらすことは容易に想像ができるだけに、座光寺は今まさに、「一大変革の夜明け前」と言っても過言ではありません。そんな状況に的確・迅速に対処するために、四月二十五日にリニア対策特別委員会が発足しました。

この委員会の役割は、リニアが及ぼす影響について様々な観点から調査や検討を行い、あるいは、先進事例から情報収集をして、座光寺のあるべき方向を模索して、地域の意思を集約することにあります。そして、その意向を踏まえてＪＲ東海や行政の動向に対処して参ります。

地域に大きな変革が起きようとしている時に、そこに住む人は、地域の歴史、自然や文化を守り、次の世代に引継いで行く責任があり、地域が一致協力して対処することが重要です。この特別委員会に地域の英知を結集して、地域繁栄に繋げることが大事であると考えます。

委員には、多くの若い方々が参画され、新しい感覚での議論が進められる事が期待されています。

本年度の具体的な活動方針として、先ずは、秋頃までには数回の委員会を開催し、座光寺の置かれている現状認識と地域資源の再確認をしたのち、リニアを見据えた地域づくりについて学習等で一定の知識を蓄えて、先進事例の視察を実施します。その後、地域としての対応のあり方を詰める予定です。具体的なリニア計画が発表される前に、リニア駅を前提とした、地域のあり方をまとめる事ができればベストと考えています。

リニア建設は、県、市、広域の動向を無視して考える事はできず、大局的な視点を踏まえて、地域の夢の実現に取り組んで参ります。

● 人のうごき　世帯数／1,570戸　人口／4,656人　男／2,264人　女／2,392人（平成24年5月末現在）

今年度の重点目標と活動方針について

資源を活かした地域づくり

自治会長　湯澤　英範

平成十九年に新しい地域自治組織が発足、今年は六年目となり、同年に策定された基本構想・基本計画に基づいて多くの事業を実施してきました。昨年は五年目の中間年として取組状況を検証し、中間評価ですが、総じて「課題はあるものの、多くの施策がほぼ実施できている」と高い評価がされています。このことは、今日までの自治活動が是認されたということで、今後もこれまでの路線を堅守し、本年度の基本方針においても、「基本構想・基本計画の着実な実施」を掲げて意欲的に取り組んで参ります。

具体的には、「六つの里づくり」の更なる実現を目指して、見直しの結果を踏まえて進めて参ります。特に本年は、リニア時代を見据え、恵まれた地域の自然環境や資源の魅力を活かした地域づくりを進めることが大事であると考えています。例えば都市との交流に視点を置いた動きとして、大門原地籍の遊休農地の活用の取り組みは、これからの地域づくりの方向性を探る貴重な取り組みと考え、着実な事業進展が図られるよう支援して参ります。

また、本年度発足したリニア対策特別委員会は、地域の将来を大きく左右するだけに、諸般の動きを注視し的確・迅速に対処して参ります。

更に、基本構想の見直しの中で取り組みが弱いと指摘された隣近所の支え合いによる快適な生活環境づくりでは、移送サービスのスタートやおでかけクラブの育成などに取り組むほか、活力ある産業づくりは、地域資源を活かした観光の里づくりに向けて意欲的に取り組んで参ります。

このほか座光寺の活力の源となっている自由意思による活動である特別委員会事業には、過去最高の六二〇万円余の積極予算で、その活動成果に期待を寄せています。

住みよい座光寺のために共に汗しましょう。

新年度を迎えるにあたって

健康福祉委員会
委員長　清水　明

健康福祉委員会の委員長となって今年は四年目を迎えます。委員の皆さんも、二年目を迎えます。今年は、いろいろな意味で、一つの区切の年としたいと思っています。

健康福祉委員会は「健康」と「福祉」の二つの大きな役割を担っています。委員の皆さん一人一人がこの二年間の事業を通して、少しでも自分自身の日常生活に生かしていただきたいと念願します。

「健康」の面では、今年秋に健康講演会を実施します。テーマは「がん検診」についてです。座光寺地区のがん検診の受診率が二十地区中十八番目と、受診率が低いのが現状です。受診率の向上は健康な体づくりの一歩です。もう一度自分の健康を考えましょう。

「福祉」の面では、昨年から取り組んできた「移送サービス」を、ようやく軌道に乗せることが出来るようになりました。車の確保も出来、対象者の訪問を実施しているところです。今年一年かけて、少しずつ充実させていきます。

今年も同委員会の事業への御協力よろしくお願いします。

「どーぞ」の気持ちで！

生活安全委員会
委員長　池場　高男

平成二十四年度の生活安全委員会は、「子どもを見守る」と「高齢者の交通事故防止」を重点事業にかかげて活動していきます。

三十二名の地区代表と二名の外部役員、本年から事務局担当の飯島さんと三十五名で地域の安全で安心なまちづくりを目指していきます。

未来を担う子ども達が安全を心掛ける習慣を身につけるよう安全教室で呼びかけ、少年団活動を通じて正しい自転車の乗り方を指導し、マナーや法令を守れるひとり一人にできたらと願い事業を進めていきます。

高齢者の家庭訪問を有効に行えるよう検討し、事故や、オレオレ詐欺に遭わないように警察と連携していきます。

交差点での交通事故と高齢者のかかわる事故が多いです。どんな交差点でも安全を確認し、徐行して通過しましょう。ひとりひとりが「どーぞ」の気持を持てば、事故は少なくなります。起こそうとする人は誰ひとりいません。ではなぜ事故が起きるのでしょうか。今一度考えてみましょう。

一秒待つ、安全を確認することが大切です。

皆で安全に心掛けましょう。

座光寺地区の環境問題

環境衛生委員会
委員長　菅沼　浩一

今年は新年一月に、環境学習の一環として座光寺小学校校長の中村先生を講師にお招きして「水生生物と水質問題」のテーマのもとに勉強会を開催しました。

二月の文化祭では、この勉強会などで学んだ事を中心として「座光寺地区の河川の水質の推移」の展示発表を行いました。

従来環境衛生は、毎週のゴミの分別収集、不法投棄問題、河川清掃などを主な活動として地域の皆さんと協働して行ってきました。

本年度はこの様な活動を踏まえ、新たに「水環境問題」にも取り組んで行きたいと思います。一昨年からリニア駅の大まかなルートが発表されました。近い将来この事が地域の環境に、大きな影響を与

えてきます。

夏は蛍が飛び交い、水辺では子ども達が魚とりに夢中になれる様な、そんな地域づくりの一助になればと考えます。

公民館は皆さんの活動の場

公民館長　塩澤　哲夫

公民館の活動の場は、地域を学び育てることと自身の文化度を高める学習の場であり、地域が抱える様々な課題をみんなで知恵を出し合って解決する行動の場であると思います。

公民館の各専門部員も、皆さんに喜んでいただけるよう活動してまいります。

体育部は、体を動かして活動することを中心とした交流の場を設定していきます。

文化部は、多くの皆さんに楽しんでもらえる学習や発表の場を設定していきます。

健全育成部は、子どもさんを中心にして保護者の皆さんにも参加していただいて共に育つ場を設定していきます。

広報部は、皆さんの思いや願いや喜びの現れた場面を皆さんにお伝えすると共に記録保存していきます。

座光寺が、健やかに心和やかに豊かでお互いに支え合って住みやすくなるようにと願っています。皆さんのご支援と積極的な参加をお願いします。

特別委員会

「四本柱」で今年も頑張ります

水辺の広場委員会
委員長　棚田　守

設立六年目を迎えた水辺の広場委員会は「楽しく豊かな地域づくり」を目指して今年もスタートいたしました。目標とするハードな部分の整備はほぼ完了しました。今後はソフト面での事業をいかに行っていくかです。本年度の主な事業としては「環境整備」「こいのぼりの設置」「ほたると水生生物観察会」「文化祭への参加」を中心に四本柱として公民館との連携を密にし子どもさんを中心とした事業の推進になお一層努めてまいります。渋谷区との交流につきましては自治会との連携をとりながら前向きに進めてまいります。

また座光寺地域土地利用を進める中で今後の具体的な課題の解決に向けても取り組んでまいります。

ふるさと応援倶楽部について

企画委員長　古井　武志

座光寺には自主的にさまざまな活動をしている沢山のグループがあります。そのなかで、お互いに情報交換をしながら他のグループの取り組みを参考にし、自分たちの行っていることに活かしていけたらいいナということや、お互いに刺激を受けたりして、みんなが元気に活動できるようになればいいナということと、また、あらたに自分たちもこんなことをしてみたいと思っている人たちがいればそのお手伝いができればと考えているところです。平成二十四年度の事業としては、「夢を語る会」を開催し、各グループの皆さんが集まって、それぞれ自分たちの行っていることを紹介しながら、さらにこれからこんなことをやってみたいと将来の夢を語り合おうというものです。また、どこか先進的に地域づくりに取り組んでいるところの視察もしてみたいと考えています。地域の情報発信として「麻績の里座光寺便」の発行、「ふるさとパック」の販売、さらに他地域との交流事業も積極的に実施していきたいと思っています。

地域振興の源はあなた

麻績の里振興委員会
委員長　今村　衛

当会は、座光寺が元気で魅力ある地域になるよう、「自ら考え自ら行動する里づくり」を目標に四つの班が実践してきました。一班は『元善光寺を含めた一体的な振興』を、二班は『南本城を核にした城跡の保護整備』を、三班は『文化施設の有効利用と舞台桜等の環境整備』を、また四班は『竹宵で地域と南信州の一体的な振興』を、各班が相乗効果を図り取組んでいます。今年度の重点事業としてまずは、四月の麻績の里桜まつりの交通対策や桜の保護を充実し県内外からの観楼客に〝おもてなしの心〟でお迎えする。次に「春は桜秋は菊の里」と呼ばれるよう、小菊の栽培をとおして元善光寺周辺の門前町景観の将来像を模索するため、沿道の皆さんおよび関係者との輪(和)を広げる。また、南本城城跡の県史跡指定を前提に、希少植物の保護や観察会・下草刈を地域の方と共に実施。舞台校舎の利活用の再検討。竹宵は、市地域内イベントは元より渋谷区と交流の架け橋として原宿への展示。以上が主な内容です。あなたも地域のために愉快な会員と一緒に汗をかいてみませんか。

これからの座光寺地域の土地利用計画

土地利用計画運営委員
長沼　春雄

今年度は、基本構想・基本計画の見直しを行っています。土地利用計画も身近に迫っており、リニア及びアクセス道路が地域の大きな課題になってきました。駅、路線の位置が提示される二十五年秋以前に土地利用計画を充分検討し、座光寺の魅力を活かした土地利用の仕方を考えなければなりません。又、リニア対策特別委員会とも連携を取りながら計画を進めていきたい。

土地利用の基本方針として、「座光寺に住み続けたい」「座光寺で暮らしてみたい」と言う気持になる地域になっていけば明るい座光寺になると思います。

土地利用計画の新農業推進エリアにある、大門原遊休農地開発についても組織を作りますが、整備には多大な費用

が必要であることから、飯田市とも連携を取り補助事業等活用していきたい。目の前に広がる景観を生かし、野菜作りを楽しみ、春には、桃、リンゴ、梨の花、秋には、収穫体験を、子ども達との交流の場として、又、都会の人達との楽しい場所として活用できれば良いと思います。

本年度重点目標と活動方針

高岡の森保存会
会長　石田　文夫

五月十二日総会で標記の件について最終決定しました。

例年のようにまず森の環境整備。高岡の森の草刈りと花木の手入れ、五月、七月、十月の三回実施します。今年は別に四月中旬に市から頒布されたアジサイを役員で植樹しました。咲き始めるのは広報が発行される頃なので、ぜひ観ていただきたいと思います。

次の重点は「歴史に学び地域を訪ねる会」主催の、森にある県史跡の高岡第一古墳など座光寺地区の伝統的文化歴史的遺産（座光寺の「宝物」）に関する諸企画に積極的に参加協力することです。詳細はその会の記事をご覧いただきたいのですが、本会に直接関係するのはアジサイの植栽（県の支援金による）と森の駐車場の確保です。今の駐車場は私有地で流動的な面も予想されるので恒久的に使えるよう皆様のご理解とご協力をお願いしたく思っています。

高岡第一号古墳は飯伊地区最大級で保存状態も県下随一です。この歴史的文化的な価値を認めあい、誇りとして保存管理し親睦を深めていきたいと思います。

座光寺を一層輝かせるために

歴史に学び地域をたずねる会
会長　小島　稔

私たちは、座光寺の自然・歴史・文化等の地域の宝を守り、一層輝かせ、誇りと愛着を高めるための活動をします。県からも百八十一万余円の活動資金もいただきます。皆さんの思いを受け止めながら、次の活動を重点に取り組みます。

一、地域の宝に、立看板を建てます。

○昨年までに高岡古墳群と恒川遺跡に十四箇所建てました。本年度はそれを全地域に広げて立て看板を建てます。

二、座光寺マップを作ります。

○地域の誇れる宝を知っていますか？地域を理解し、思いを込めて語れる人の存在こそ地域の魅力。小・中学年でも一人で散策できる絵図付き案内マップを作ります。

三、地域を知り学ぶ学習会を開きます。

○現地学習や講演会など地域を学ぶ多彩な学集会を開きます。

四、高岡の森の隣接地（旧ルミア光学跡地）を取得する方途はないか。

○隣接地に住宅でも建てば古墳の景観は半減。その獲得を市にも要望してきたが、現状では困難とのこと。皆さんの知恵と思いを大切に、獲得する方途をまとめたい。

日赤座光寺奉仕団の活動

日赤座光寺奉仕団
分団長　熊谷八千代

現在、座光寺分団は団員二百名、内救急員十一名となっています。

核家族で座光寺に入居してきた方や若い世代の方々には、日赤奉仕団と言っても、理解できないのではないでしょうか。

活動として、災害時における炊き出し訓練や救護活動、防災訓練、夏祭り、秋の地区運動会、文化祭、等自治会の諸行事に参加しております。

春、秋の非常召集訓練には、消防団との連帯で行っております。高齢化の為、存続が危ぶまれる地区もあります。

三月には新旧の交代です。一期二年間です。若い世代にも、参加していただけたら良いと思います。

救急員の人数も少ないのですが、七月に救急員養成講習会があります（七日、九日、十二日、十四日の四日間）この講習会に参加していただくと救急員の資格が取得できます。

三・一一の震災で、各都道府県では防災の見直しを行っております。今、東海沖地震の発生が懸念されております。飯田地区も大きな被害に見舞われると思われます、その為にも若い世代の力が必要です。ぜひ、奉仕団の活動を理解し、参加されることを希望します。

高い目標に向かって取り組みます

座光寺消防団
分団長　小倉　智弘

座光寺地域の紫陽花も色づき始める季節となってきました。座光寺消防団です。

今年度、座光寺消防団は各班で目標を定めて日々活動に励んでいます。今日はその目標を皆様に発表したいと思います。

自動車班目標
・機関点検への出席率六割確保

高岡班目標
・飯田市操法大会優勝
・公務災害0
・機関点検への出席率十割確保

原宮崎班目標
・全員がポンプ操作を覚える

喇叭（ラッパ）班目標
・一曲完全吹奏

予防救護班目標
・飯田市大会三位入賞

分団本部目標
・座光寺地区内の建物火災0

以上の目標を定めて日夜活動しています。私個人としては〝地域共助力の強化〟を目標に、消防団通信の作成や戦術シュミレーション訓練等に力を注いでまいります。

最後になりますが、座光寺地区の操法分団大会は六月十日、飯田市操法大会は六月二十四日に開催されます。団員の頑張りを生で観戦して頂けると幸いに存じます。

人波作戦

生活安全委員会

私達生活安全委員会は、交通安全運動期間の初日に池場委員長を中心にして、座光寺平安堂前にて年間四回（春夏秋冬）上郷交番の方、飯伊交通安全協会の方とのぼり旗を立てて、通勤時間帯（AM7：00～7：30）に自動車運転手のマナー喚起を行っています。

いまだに運転中の携帯電話使用が目立つようです。助手席および後部座席のシートベルト未使用の方も見られます。また、いまだに飲酒運転が減らないと言われています。これらは交通違反になり交通事故の大きな要因になります

全国では四月の下旬から五月にかけて、小さな子供を含む悲惨な交通事故が続き尊い生命が多数失われました。これらの交通事故も運転手自身の意識の持ちようによっては避けられた事ではないでしょうか。

飯田下伊那地域の平成二十三年度の交通死亡事故は、四月には上郷、五月には上郷、松川町、根羽村、十月には山本、松川にて、十一月には伊賀良、南信濃、十二月では松川町大島で九件の交通事故が発生し、十人の尊い命が失われました。飯伊地域の特徴として高齢者の方々が犠牲者になるケースが多いと言われています。交通事故を起こした加害者、被害者の方もご家族の方にも多大な損失をこうむります。

又、高齢者の方が、夜間外出時には夜間反射板を着用していただくように家族で今一度話し合っていただきますようお願いいたします。

平成二十四年度、飯伊交通安全協会より、交通功労団体として、長豊建設株式会社、座光寺原地区の二団体、交通功労者として大島勝氏（中羽場）、優良運転者として北原祐子氏（恒川）、壬生加代子氏（唐沢）、松村嘉久氏（北市場）、棚田定興氏（下羽場）の五名が表彰を受けられました。おめでとうございました。受賞者の方々はこれから、地域の模範となる事でしょう。

又、これから、梅雨時に入り歩行者や子どもたちが傘をさす機会が増える時期になりますので、充分に注意をして安全運転に心かけてください。

地域の交通安全を願って

飯田下伊那地域では、自動車等乗り物は必要不可欠ですので十分注意して使用していただけるよう願っています。

交通事故は他人事とは考えずに今一度家族と話し合って悲惨な交通事故をなくしましょう。

『おでかけ倶楽部会員交流会』実施報告

社会部長　三村　修

買物支援三百円タクシーの利用率が良くないことがあり、五月十七日湯ヶ洞温泉に於いて、おでかけ倶楽部会員二十二名の参加により交流会を行いました。

目的は会員同士が親密な関係となることにより、三百円タクシーの利用回数が増えることを期待したものでありました。利用率が良くない主な理由として、「帰途二人以上」でないと補助を受けられない・「行き先が限定」されている・「買物時間が合わない」・等の理由で、以前調査した内容とほぼ同じでありました。

今回の交流会だけで納得のいく結果が得られるとは思えませんが、第一歩と考えてこれからも交流会を継続して行うことで、交流の和が広がることを期待したい。

今後利用状況を調査して、可能な要望は改善することで、少しでも利用し易くなるように取り組んでいきたい。次回の交流会には今回都合で参加できなかった会員の方にも参加頂いて、実施できればと考えておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

平成二十四年度座光寺地域 自治会表彰

自治会では、地域の発展と明るく住みよい郷土建設のために貢献した個人又は団体に対して表彰を行っています。今年度は五月八日に式典が開催され、個人二名が受賞されました。

小島　稔さん

公民館長として地域の自治活動に献身的に取り組まれ麻績の里づくりに多大な貢献をされました。

今村善紀さん

御尊父善興殿の長年に渡る地域の歴史文化活動に対する遺志を継いで公民館活動に多額の御寄付をされました。

皆さんのお支えに感謝

小島　稔

公民館長を退任させていただきました。

公民館委員始め地域の多くの皆様にお支えいただきましたことに心から感謝しお礼申し上げます。

公民館活動は、時の課題に正対し、それに取り組む中で人が育ち地域が目覚める（地域力が育つ）場であると考え、人と人の絆の深化、子どもの健全育成、地域の文化振興などを念頭に、委員の皆さんと取り組んで参りました。

各地区工夫を凝らし、多くの住民が楽しく参加し交流を深めた運動会、豊かな展示・質の高いコンサートや講演会・盛り上がったフォーラムの内容の濃い文化祭など、委員の思いが住民に伝わり充実したものであったと思います。

自由・創造がモットーの公民館活動は、委員の皆さんのご苦労も多かったと思いますが、よき人の輪に恵まれありがたいことでした。公民館の益々のご発展を心から祈念いたしております。

平成24年度 地域自治会予算

〈収入の部〉　（単位：円）

予算区分	金額	説明
1．会費	17,500,000	個人、法人会費
2．消防協力費	1,350,000	個人、法人
3．補助金	8,957,740	市県からの各種補助金
4．負担金	500,000	会議参加者負担金
5．繰入金	1,000,000	基金からの繰り入れ
6．繰越金	6,734,511	前年度繰越金
7．雑収入	17,249	利子、祝儀等
合計	36,059,500	

〈支出の部〉　（単位：円）

予算区分	金額	説明
1．報酬	840,000	委員報酬
2．諸手当、報酬	2,305,500	各種手当
3．旅費	850,000	地域外会議参加費ほか
4．消耗品、通信費	2,364,000	文具、郵送料、保険料等
5．地域振興費	12,147,000	各種地域振興策、特別委員会費用等
6．各委員会費	8,158,000	環境衛生、生活安全健康福祉、公民館
7．施設整備、管理費	550,000	麻績会館、防災倉庫等
8．備品購入費	150,000	事務機器等
9．負担金、助成金	3,340,000	自主防災、各区連絡会、麻績の里づくり支援事業等
10．消防団助成金	1,350,000	消防団へ
11．積立金	300,000	基金積み立て
12．予備費	3,705,000	次年度繰越金相当
合計	36,059,500	

平成23年度 地域自治会決算

〈収入の部〉　（単位：円）

予算区分	金額	説明
1．会費	17,432,695	個人、法人会費
2．消防協力費	1,350,000	個人、法人
3．補助金	10,246,279	市県からの各種補助金
4．負担金	626,800	会議参加者負担金
5．繰入金	0	基金からの繰り入れ
6．繰越金	4,619,477	前年度繰越金
7．雑収入	243,229	利子、祝儀等
合計	34,518,480	

〈支出の部〉　（単位：円）

予算区分	金額	説明
1．報酬	820,000	委員報酬
2．諸手当、報酬	2,307,884	各種手当
3．旅費	990,730	地域外会議参加費
4．消耗品、通信費	1,709,497	文具、郵送料、保険料等
5．地域振興費	6,678,638	各種地域振興策、特別委員会費用等
6．各委員会費	7,908,000	環境衛生、生活安全健康福祉、公民館
7．施設整備、管理費	607,160	麻績会館、防災倉庫
8．備品購入費	35,380	事務機器等
9．負担金、助成金	2,376,680	自主防災、各区連絡会、麻績の里づくり支援事業等
10．消防団助成金	1,350,000	消防団へ
11．積立金	3,000,000	基金積み立て
12．予備費	0	
合計	27,783,969	

平成二十四年度 地区長名簿

一年間大変ご苦労様ですが、よろしくお願いいたします。

（氏名）	（地区）
塩沢明彦	宮の前
池田文彦	唐沢
湯澤潤	共和
棚田和男	下羽場
牧内章仁	中河原
正木進	中羽場
横田隆司	欠野
棚田博昭	河原
熊谷由美	高岡
細井武	清水
片桐直夫	恒川
松村秀樹	中市場
鈴木徹	南市場
亀山直樹	駅前
杉山清	北市場
高橋茂満	上野
大野良人	上野新町
澤田景夫	万才
福島毅	原
吉川正	宮崎
園原秀樹	大堤

年度末人事異動

○座光寺自治振興センター

【転入】

木村喜美子　福祉課から
飯島　初美　福祉課から

【転出】

藤井　裕子　農業委員会へ
上村英莉子　学校教育課へ

麻績の里桜祭り

「麻績の里桜まつり」が四月十四、十五日に行われ開花した舞台桜、石塚桜を一目見ようと多くの観光客でにぎわいました。特に「子ども桜ガイド」は好評で「とても親切で感動した。うれしかった。」とお礼の手紙も届きました。

桜ガイドをさせて頂いて

高陵中三年　石垣　陽子

今年私は初めて、桜ガイドの存在を知り体験させて頂きました。最初に受けさせて頂いたガイドの講習会では、自分が知らなかったエドヒガンという種類の桜について知る事ができ感激しました。

一日目はあいにくの雨という滑りだしでしたが、二日目はとても良く晴れ一日目より多くの方々にガイドをさせて頂きました。私が特に大変だと思ったのはお客様への声掛けでした。写真を撮っている方が多く、どのタイミングが良いかと迷いました。それ以外は順調で、頑張って下さいとか分かりやすかったですと言われた時は嬉しかったです。とても充実した二日間でした。

親切な対応が評判の桜ガイド

桜ガイドで学んだこと

高陵中三年　對馬　実由

私は今年、初めて子ども桜ガイドをやらせていただきました。

三月下旬、桜ガイドの学習会がありました。私は桜についてよく知りませんでした。しかし、この学習会では多くのことを教えていただき、勉強になりました。

四月十四日と十五日は、ガイドをしました。とても多くの方が来てくださいました。上手にご案内できたかは分かりませんが、ご案内を聴いてくださった方が、ありがとうと言ってくださり、嬉しかったです。二日間で多くの方とお話することができ、とても良い経験となりました。

麻績神社春祭りを終えて

若連中代表　片桐　守広

伝統ある麻績神社春祭りが三月三十一日、四月一日に開催されました。

宵祭りは、あいにくの雨、本日は、雨こそは降りませんでしたが、寒い中での開催となりました。獅子曳き、越後獅子、そして舞子、笛、それぞれが勇壮の舞い　無事に獅子頭を神社に奉納することが出来ました。

各師匠様をはじめ、年番の皆様、そして座光寺地区の皆様にはお力添いを頂き有難うございました。大変盛り上げて頂き、大成功に終える事が出来ました。

小さな頃から見て来たこの伝統ある麻績神社の春祭りを、自分が携わらせて頂けた事に感謝しております。

今後も、麻績神社の獅子を次の世代へと継承して行くことが、これからの私の役目だと思っております。

声

投稿欄

恒川清水を学ぶ会　発足への想い

この恒川清水地区は、豊かな自然に恵まれ、先人達が残してくれた貴重な歴史と文化が眠っています。それを皆で楽しみながら学び合い、改めて私達の生活、文化を見つめ直して、心豊かに暮らせる地域にしたい、そして次代に受け継いでゆきたい。

学ぶ会発足の時の文章の一部です。

地区内の人に呼び掛けて、お年寄りの人から清水にまつわる話を聞きました。

一五三号のバイパス開通前の清水の写真を見て、懐かしいなあと言いながら話が始まりました。とにかく、清水は地区の中心だったという話。

野菜、米等や着物の洗濯、鍬や蚕の道具を洗いに来る人。朝に顔を洗い、歯を磨く人。当然、顔を合わせば話が始まり情報交換の場となる。子どもにしてみれば遊び場だった。水の中に入って汚すとどっかのおじさんに怒られた。近くには蛍が舞い、うなぎもとれた。

時には、水神様、秋葉様の祭祀の場になった。灯明が上げられ、津島様の提灯が水面に映えたのが脳裏に浮かぶという。十王堂もある。真夏でも五分と水中に居られない位冷たかった。

更には、三千年前の縄文時代から人が住んでいたという話。心豊かに暮らせる麻績の里を作ろうとしている私たちの姿は縄文の人にはどう映っているのかな。どんな生活をしていたかなと想像したりします。忘れてはいけないのは、秋のお菜洗いです。高岡や中市場の人もやって来て、七～八人の人が整然と霜が降りたり、氷が張る頃迄続いたということです。

清水の水が出なくなってから三十年たちます。満々と水を湛えた姿を知っている人がどれ位いるのでしょうか。

恒川清水を学ぶ会では、住民の自慢であり、拠り所であった清水が無くなったのは寂しいが、その頃にも負けない位楽しい、元気な地区にしたいと思っています。

（今村作衛）

No. 13

「地域の歴史にふれる」―シリーズ―

高岡の森

高岡一号古墳は、七世紀頃築造された渡来人系の古墳といわれています。墳丘の形は前方後円で全体の長さはほぼ七十メートル余あって、飯田下伊那地方では二番目といわれます。古墳の廻りには大きな木が育ち「高岡の森」があります。現在のところ一番古い写真は大正五年のもので、大きな森があり、南側に民家が一軒、周囲には桑畑が取り巻いています。

古瀬平から望む高岡の森（大正2年）周囲は桑畑

高岡社はいつから祀られていたのか、森はいつ頃からあったのか知りたいところですが、現在のところこの記録が見付かりません。社の記録は、寛保二年（一七四二）南方大明神と唱え、社殿は一間×一間三尺とあり、「往古より墳上に一社あり」と書かれています。

これからの話は全く推量のことでありますが、郡衙が置かれた「奈良時代」に郡衙の長官は元々座光寺に勢力を張った人と思われます。その祖先の墓が「高岡古墳」と思われます。郡庁が古墳の東側にあったと思われますので、祖先の古墳の上に社が祀られたかも知れません。郡庁が置かれた辺りに「宮ノ前」の地名が残されています。

高岡の森は江戸時代から村管理の土地でありました。文政年間の村方年中行事の記録によると「八幡社」「御鍬太神宮」「御祭山社」と共に「高岡大明神」は村方の祭礼で御神酒五升奉納して八月朔日に祭礼が行われています。従って森の管理も村で行われています。

上野から望む現在の高岡の森

明治五年に舞台建築が決まったので、若者によって無断で二十二本伐採された事件がありました。飯田の役所で吟味が行われたが不問に伏されたようです。その後、昭和二十五年に高陵中学校建設のために高岡の森の大きな木が切り倒されたことはご承知の方が多いと思われます。

ふるさと再発見講座 No. 6

垣川清水の遺跡と文化財をたずねる

四月八日、好天に恵まれ垣川（ガ）遺跡を中心に、飯田市教育委員会馬場係長、飯田市歴史研究所北村研究員を講師にお願いして開催しました。参加者は小中学生大人約四十名の皆さんでした。

正倉院跡、墨書土器（厨）出土地、推定館（タチ）跡、木簡出土地、和同開珎銀銭出土地を巡り現地説明を開いたのち、垣川清水会所にて、座談会を行いました。

垣川遺跡って何？　郡衙（グンガ）って何をするところですか、正倉とは、厨とは、館とは、郡の役所と垣川清水との関係は、木簡は何に使われたのか、和同開珎銀銭って何？　奈良平安時代の人々の生活くらし方、紙は貴重品であったことなどたくさん学習しました。

垣川清水での様子

編集後記

経済開発協力機構が、国民生活の幸福度を評価した「より良い暮らし指標」の最新版を発表し、結果によると日本は三十一ヵ国中二十一位。「仕事と生活の調和」や「生活の満足度」の評価が低かったようです。

全国の自治体でも住民の幸福度を探り、政策立案に生かそうとする動きがあるようです。

幸福感はおそらく住む地域によっても異なるのでしょう。私達の住む地域なら、どんな項目にどの程度の比重を持たせて判断したらいいでしょう。飯田市はがん死亡率が低い、と聞いたことがあります。「健康」の満足度は高いだろうと想像します。「安全」でも合格点がもらえるでしょう。でも、雇用や老後の生活は…？　子や孫の世代にはどうなっているのかな？

田植え間もない新緑の候、稀有な金環日食に歓声をあげる子ども達の姿に、ふと「幸福というもの」について考えるのでした。

（広報　棚田（亜））

この広報は、古紙パルプ配合率100％の再生紙を使用しています。このマークは3R活動推進フォーラムが定めた表示方法に則って自主的に表示しています。

広報座光寺　発行／座光寺地域自治会　編集／公民館委員会広報部　印刷／龍共印刷株式会社